

令和7年度 第6回 学校運営協議会 議事録

日程：2026年2月26日（木）
時間：15時30分～17時00分
場所：第六中学校／第1応接室
参加：（委員）10名
（事務局）1名
進行：事務局
記録：担当委員
文責：担当委員

●報告と状況説明 ・感想や提案

校長より本日の協議内容も含めた校内の様子

- 1月23日（金）に『「まなびの森」で創る 未来につながる授業』を主題とした、研究発表を行なった。
休憩時間には、主会場となった体育館で、来場された各校の先生方が、和やかに対話している様子がとても印象的だった。それは、例年の研究発表会で見られないもので本校が目指した対話のある学びが、多くの方にも響いたのではないかと思う。
- 研究発表会のアンケートは、感想に止まらない具体的なコメントが多くあった。
- 外部から本校の研究授業を視察したいとの申し出がある。
- 来年度の本協議会では、保護者のみなさんの課題にも向き合うテーマも協議していきたい。（例：子育てセミナー）

報告・協議

- ② 「研究発表会」を参観して
 - ・壇上に上がった生徒たちが堂々と発言していたことが印象的だった。
 - ・生徒に委ねることへの懸念もあるのではないか。
 - アンケートの中には、『生徒が参加する「ジュニア研修部」を行なってみたいが、問題が起こらないか。また、その発言に引っ張られないか心配』という声があった。
 - 本校は、生徒の人権はもちろん、教職員の人権も大切にしているからこそ「ジュニア研修部」も成り立っている。
 - ・同感です。教職員のみなさんに安心感があると思う。
 - ・お互いに尊重し合えるような雰囲気を感じる。
 - 生徒は若年ということで許されるという論理が、社会的には在るのではないか。

- ・人権は、世代に関係なく大切なこと。
- ・ぶつかり合うことがあっても、生徒も教職員も、互いの学びの場となることが理想。
- ・対話が成り立ち難い状況はないのか？
- ・対話は、聞くことから始まることと考える。
- ・粘り強く、継続していくことが大切。
- ・積み重なった日常がないと、共感することが難しい。このように対話している校内の状況を、多くの保護者に知っていただく必要を感じる。
- ・PTAの「家庭教育セミナー」も活用出来るのではないか。

③ 今年度の「学校運営協議会報告会」に参加して

- 一体感があった。
- 小学校の現状を知り、本校に進学する児童の様子を想像する機会になった。
- ・ 地域の者も参加する本会の在る意味を改めて考えさせられた。

④ 今年度「学校評価報告」と来年度の方針

- 報告書の項目は、調布市立学校における共通した領域＜短期的な経営目標＞は、『①豊かな心』『②確かな学力』『③健やかな体』。
学校の特色を生かした領域＜短期的な経営目標＞は、『④キャリア教育の充実』『⑤対話を重視した言語能力の育成』『⑥CS 運営委員会、地域学校協働本部との連携』。
- 評価基準は、肯定的評価 80%以上で A とした。
- 『対話を重視した言語能力の育成』の中で、「読書」に関する肯定的評価が、80%を下回った。
- ・ ③に対して、良い取り組みが出来ている。
- ・ ⑥は、良く出来ている。
- ・ ①で、いじめ対応について、生徒の肯定的評価は 80%以上あるが、保護者の声に「わからない」が 30%強あることに対して、学校の取組を、これまで以上に積極的に伝えてはどうか。ただ、個人情報に関わるものも多く、当事者でないわからないことがあるのも仕方がないこと。
- ・ ②の取組にある「ICT の活用」は、生徒の端末でのアクセスの規制がある。
必要なことは、紙での情報も併用してはどうか。
- ・ B 評価となった⑤の「読書」に対して、読書経験の低さによるマイナスはあるのか？
- 「読書」以外に、言語能力を高める方法を見つけたい。
- ・ 漢字検定の結果とも関係するのではないか。
- ・ 生徒たちは、「読書」することで言語能力を上げるという目的を持っていない。

連絡

- ・ 事務局より

- 来年度最初の協議会は、4月3日（金）13時30分～

・その他

- 3月11日(水) 東洋大学 京北高校の先生による哲学対話の研修を実施する。
- 部活動の地域移行が課題となっているが、サッカー部は準備を進めている。
 - ・地域移行を、電通大と特定の部活動で進めている市内の学校もある。
 - ・NPO 法人が複数の学校をまとめて部活動を指導しているという例もある。
- 来年度の新1年生は、130名程度の予定。

以上